SHOGI SEITEN II

将棋聖天 II

ユーザーズマニュアル

User's Manual

このたびは魔法株式会社の将棋ソフト「将棋聖天II」をお買い上げいただき誠にありがとうございました。

「将棋聖天II」は、ご好評をいただいております「将棋聖天」の華麗なグラフィックを継承しながら、さらに機能面での充実、操作性の向上、そして棋力アップと将棋指しにとって最も使い易く面白いソフトを追究した作品です。

将棋を指すばかりでなく、プロの棋譜の研究、観賞、棋譜の保存、定跡の研究、詰将棋など幅広くご活用ください。

取扱説明書

将棋聖天 II

目

C O N T

第1章 「準備編」

第2章「機能編」

次

E N T S

第3章「トラブル編」

将棋聖天Ⅱのご案内

「将棋聖天Ⅱ」は、次のような多彩な機能と特長を持っています。

●棋力の向上
前作「将棋聖天」の思考プログラムを全面改訂、棋力は現行の将棋ソフト中最高となりました。

●思考時間の短縮
強くなったからといって遅くはなりません。改訂された思考プログラムは速度の点でも最速を誇ります。

●ユーザーフレンドリーな操作
全ての操作をマウスで行えます。(ファイル指定のみキーボードから入力します)また操作メニューが全て見やすいウィンドゥになりました。

●棋譜再現機能
対局の後でも途中でも、棋譜を再現・鑑賞することができます。「指し継ぎ」や思考レベル・手番の変更なども簡単にできます。

●待った機能
対局中いつでも「待った」がかけられます。操作を誤ったときや勘違いをしたときにご利用下さい。

●仮指し機能
こう指せばどうなる……対局中や詰将棋で仮に手を進める、仮指し機能が追加されました。

●定跡選択機能
定跡データをディスクから読み込むことにより、コンピュータの指し手を多種多様に変化させることができます。魔法株式会社がこれまでに蓄積·精選した約10万手の定跡をお楽しみ下さい。

●定跡編集機能
新しい定跡を入力、登録することができます。定跡選択機能でその定跡を選択すれば、コンピュータはあなたの教えた定跡で指します。また既存の定跡データを追加修正することも可能です。あなただけの「将棋聖天Ⅱ」をお作り下さい。

●盤面編集機能
お好きな局面を設定し、その状態から対局を始めることができます。駒落ちも自由自在です。

●詰将棋
伊藤果　六段による、詰め将棋を365問用意しました。出題前のプレビュー機能がありますので、お好きな問題を手早く選んでプレイできます。

●詰将棋解答機能
ご好評の解答機能をさらに強化、「将棋聖天」の１０倍以上の高速化を実現し、コンピュータ将棋では難しかった無駄合いの問題も解決しました。気になる難問も解決です。

●棋譜編集機能
対局名・対局者名など自由に登録できます。プロの棋譜などを入力、棋力向上に欠かせない棋譜研究にお使い下さい。

●セーブ・ロード機能
棋譜および定跡のデータをセーブ・ロードできます。セーブ用のディスク一枚につき約２０万手を記録することができます。

●印刷機能
美しいグラフィック印字で将棋盤が印刷できます。名局の保存やオリジナルの詰将棋問題集など、ご自由にお使い下さい。

●盤面反転機能
あなたが後手番でコンピュータと対局する場合､下から上に攻めることができます。

●駒盤設定機能
駒および盤のグラフィックを４種類の中から選択できます。

●ＦＭ音源による音楽
ＦＭ音源をお持ちの方は､情趣豊かなＢＧＭと､リアルな駒音をお楽しみ頂けます。

●対局記録
コンピュータとの対戦成績を自動的に集計・記録します。

パッケージに入っているもの

「将棋聖天II」のパッケージの中に次のものが入っています。お使いになる前にお確かめください。
また、特にフロッピーディスクの取り扱いにはご注意ください。

●フロッピーディスク

- 「将棋聖天II」システムディスク ・・・・・・・・・・・1枚
- 「将棋聖天II」定跡ディスク ・・・・・・・・・・・・・1枚

●マニュアル

- 「将棋聖天II」取り扱い説明書（本書） ・・・・・・・1冊

●その他

- アンケートはがき付き保証書・・・・・・・・・・・・・1枚
- 「将棋聖天戦」応募用紙・・・・・・・・・・・・・・・1枚
- フロッピーディスクケース・・・・・・・・・・・・・・1個

（上記フロッピーディスクが入っていたケース）

※梱包には万全を期しておりますが、万一不足品がありましたら、当社ユーザーサポート係までご連絡下さい。

準備編
第一章

起動の準備

対応機種

「将棋聖天Ⅱ」を使用するためには次の機器が必要です。
各機器の接続が正しくできているかお確かめ下さい。

●パソコン本体

NEC:PC-9801シリーズ•VX以降の各機種、及びNoteシリーズ
EPSON:PC-286,386,486シリーズ•ノート・ラップトップシリーズ
ただしディスプレイがモノクロ2色のみの機種は、8階調のディスプレイを接続しなければ使えません。

●メモリ

本体メモリが640Kバイト以上必要です。(拡張メモリには対応しておりません。)

●ディスクドライブ

２ＨＤフロッピーディスクドライブ　１基　または
２ＨＤフロッピーディスクドライブ　１基　＋　ハードディスク

●ディスプレイ

専用高解像度アナログディスプレイ（Ｎｏｔｅシリーズは必要ありません）

周辺機器

以下の機器があれば、「将棋聖天Ⅱ」をよりお楽しみ頂けます。

●マウス

専用バスマウス

●ＦＭ音源ボード

PC-9801-26K 又は同等品。

●ハードディスク

2Mバイト程度の空き容量が必要です。

●プリンター

PC-PR201系プリンタに対応。

ハードディスクインストールのための環境

●MS-DOS Ver3.00以上が動作していることが必要です。

●ハードディスクの空き容量が2Mバイト程度必要です。
空き容量はＤＩＲコマンドで確認できます。インストールするハードディスクのドライブがAの場合、

　　Ａ＞ＤＩＲ　Ａ：［リターン］

とタイプすれば、表示の最後の行に「○○○○バイトが使用可能です」と表示されます。

●使用可能な本体メモリが530Kバイト程度必要です。(拡張メモリを除きます。)
メモリはMS-DOSのCHKDSK.EXEを実行すれば確認できます。

　　Ａ＞ＣＨＫＤＳＫ　Ａ：

とタイプすれば、使用可能メモリが表示されます。

メモリを大量に消費するデバイスドライバや常駐ソフトを組み込んでいると、メモリが足りなくなることがあります。その場合はそれらを切り離してお使い下さい。
ハードディスクを起動するドライブのルートディレクトリにあるＣＯＮＦＩＧ.ＳＹＳというファイルにデバイスドライバなどの設定が書かれています。これを書き換えてメモリを調節して下さい。(念のため現在のＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳは名前を変えて保存しておいて下さい。)

●MS-DOS Ver5.0以降を使用すれば比較的楽にメモリを確保できます。

ハードディスクへのインストール

ＭＳ－ＤＯＳ　Ｖｅｒ．３．００以上をお持ちの方で、その使用方法をある程度ご存知の方は、ハードディスクに「将棋聖天Ⅱ」をインストールすることにより快適にゲームを行うことができます。
ただしお客様の誤操作などによってハードディスク上の既存のデータを破壊・消失しても当社ではその責任を一切負うことができません。あらかじめご了承下さい。

①ハードディスク上にＭＳ－ＤＯＳの環境が整っていることが必要です。

②Ａドライブがハードディスク、Ｂドライブがフロッピーディスクとして、以下にインストールの手順をご説明します。
ドライブ構成の異なる場合はＡ・Ｂをそれぞれお客様のドライブ構成に合ったドライブ名に読み替えて下さい。

③ハードディスクからＭＳ－ＤＯＳを立ち上げて下さい。

④Ｂドライブに「将棋聖天Ⅱ」のシステムディスクを入れて下さい。

⑤カレントドライブをＢドライブにして下さい。
　　Ａ＞Ｂ：［リターン］

⑥「将棋聖天Ⅱ」のインストーラを実行して下さい。
　　Ｂ＞ＩＮＳＴＡＬＬ［リターン］

⑦画面の指示に従って下さい。

⑧インストールが無事終了するとハードディスクでゲームができます。

●注意

◆インストールを行う場合、ハードディスクに2メガバイト程度の空き容量が必要です。

◆ゲームを行う場合、大量のメモリーを使用するドライバや常駐ソフトは外して下さい。

起動方法

■ハードディスクからの起動

①コンピュータ本体、ハードディスクの電源を入れ、ハードディスクからMS-DOSを起動します。

②カレントドライブ・ディレクトリを、インストールで作成したディレクトリに移動して下さい。

<例>作成したディレクトリがドライブBのＳＥＩＴＥＮ２なら

　　A＞B：［リターン］

　　B＞CD　￥SEITEN2［リターン］

③ＳＴＡＲＴ．ＢＡＴを実行して下さい。

　　B＞ＳＴＡＲＴ［リターン］

■ゲームの起動方法

各周辺機器が正しく接続されているか確認して下さい。

●フロッピーディスクから起動する場合

①コンピュータ本体とディスプレイの電源を入れて下さい。

②「将棋聖天II」のシステムディスクをフロッピーディスクドライブ１に挿入して下さい。

③しばらくすると「将棋聖天II」のタイトルが表示されます。

④うまく起動しない場合は、一度リセットボタンを押して下さい。

◆ハードディスクを接続している状態で、先にハードディスクが起動してしまう場合、メモリスイッチの＜起動装置＞（ＢＯＯＴ装置）を＜標準＞に設定し、リセットして下さい。（ＭＳ－ＤＯＳのＳＷＩＴＣＨコマンドで変更できます。またＤＩＰ－ＳＷ２－５をＯＦＦにしてもメモリスイッチを初期化できます。）

◆ハードディスク内蔵機種の一部でSHIFTキーを押したままリセットすればフロッピーディスクドライブから起動できる機種もありますので、パソコン本体のマニュアルもご参照下さい。

●ノートタイプの場合

①コンピュータ本体の電源を入れて下さい。

②「将棋聖天II」のシステムディスクをフロッピーディスクドライブ１に挿入して下さい。

③しばらくすると「将棋聖天II」のタイトルが表示されます。

◆フロッピーディスクから起動せずＲＡＭドライブが起動してしまう場合は、ＨＥＬＰキーを押しながら本体の電源を投入し、本体メニューを起動して下さい。

（ＣＴＲＬ＋ＧＲＡＰＨキーでメニューが起動するものがあります。）

第一ドライブを＜フロッピーディスクドライブ＞

起動ドライブを＜フロッピーディスクドライブ＞

ＲＡＭドライブを＜使用する＞に設定して下さい。

起動ドライブの項目が２つある機種は、

ＲＡＭドライブ／フロッピーディスクドライブを＜フロッピーディスクドライブ＞

ハードディスク／標準を＜標準＞に設定して下さい。

基本操作

ゲームを進めるのに必要なマウスやキーボードの基本的な操作について説明します。

●マウスの操作

画面上のどこかに表示されている下図のような矢印を<マウスカーソル>と呼びます。マウスを動かすとマウスカーソルが移動します。

マウスのボタンを1度カチッと押すことをクリックといいます。本書でクリックと書かれている場合は、マウスの左ボタンを押す左クリックのことです。右ボタンを押す場合は、区別するため右クリックと書き分けています。
「将棋聖天Ⅱ」ではメニューの選択や実行、駒をつかんだり置いたりするときに左クリックを使用します。逆にメニューのキャンセルやつかんだ駒を離したりするときは右クリックを使用します。

●キーボードへの対応に関して

マウスではなくキーボードでマウスカーソルを操作する場合は、下記のキーをお使い下さい。

マウス	左クリック	右クリック	カーソルの移動
キーボード	リターンキー または スペースキー	ＥＳＣキー	カーソルキー ↑ ← → ↓

●ゲーム画面での操作

◆駒の移動

マウスカーソルを移動させたい駒の上に重ね、クリックすると駒をつかみます。（マウスカーソルが駒そのものになります）そのまま駒を移動させたい位置にマウスで移動させ、もう一度クリックすれば駒を置きます。
間違って駒を持ってしまった時は右クリックすると元の位置に戻します。
下から上へ攻める時はマウスカーソルの形が↑となり、上から下へ攻める時は↓となります。先手・後手の区別にお使い下さい。

◆メニューの選択
左下のメニューウィンドゥにメニューが出ている時はメニュー選択待ち状態です。マウスカーソルをメニューの項目の上に重ね、クリックすればその項目が選択されます。

◆連続入力
ファイルウィンドゥなどに表示される三角型の記号は連続して入力できます。ボタンを押したままにするとクリックを繰り返すことと同じ効果があります。

◆文字の入力
ウィンドゥ内の文字入力部分をクリックすると文字入力状態になります。
入力箇所のカーソルが点滅するのでキーボードから入力して下さい。
使用できる文字は半角英数字カナで8文字以内です。ハードディスク上で「将棋聖天II」をお使いの方で、日本語ＦＥＰを組み込まれていれば、対局名などを全角で入力することも可能です。ＦＥＰの組み込み・入力はそのＦＥＰの仕様に従って下さい。(全角のファイル名は4文字までです。)

●ディスクについて
プレイの間に各種の設定をシステムディスクやハードディスク上のファイルに自動的に記録することがあります。フロッピーディスクから「将棋聖天II」を起動される方はシステムディスクを書き込み可能な状態にしてお使い下さい。

終了方法

「将棋聖天II」をプレイした後は、以下のように終了して下さい。誤った操作で終了してしまうと、せっかく入力した棋譜を失ったり、最悪の場合はディスク内のプログラムやデータを破壊してしまう恐れもあります。
終了方法は必ず守って下さい。
①棋譜など、必要なものをセーブしたか確認して下さい。
　指しかけの状態で終了した場合、セーブを行っていないと指し継ぎできません。
②メインメニューに戻って下さい。
③メインメニューの＜終了＞をクリックして下さい。
④確認メッセージが表示されますので、＜はい＞をクリックして下さい。
⑤フロッピーディスクから起動された方は、フロッピーディスクを抜いてコンピュータ本体の電源を切って下さい。
　ハードディスクから起動された方はMS-DOSの画面に戻ります。ＳＴＯＰキーを押すなど、ハードディスクのシッピングを行ってからコンピュータ本体の電源を切って下さい。
ディスクドライブのアクセスランプが点灯中は、決してフロッピーディスクを抜いたり電源を切ったりしないで下さい。ディスクが破壊される恐れがあります。

ユーザーディスクの作成

「将棋聖天II」では棋譜のセーブ用にMS-DOSでフォーマットされたディスクを使用できます。

●ハードディスク上でプレイされている方は、ハードディスクにもセーブ・ロードできます。
①新しい２ＨＤのディスクを一枚用意して下さい。
②MS-DOSのシステムディスク、ハードディスクなどからMS-DOSを起動して下さい。
③フロッピーディスクドライブに新しいディスクを入れて下さい。
④ＭＳ－ＤＯＳのFORMAT.EXEを実行して下さい。
　＜例＞Ｂドライブに新しいディスクを入れた場合
　A＞FORMAT B:[ﾘﾀｰﾝ]
　「ディスクのタイプは」と聞いてきますので「2:2HD(1MB)」を選択して下さい。

なおフォーマットを行うとそのディスクの内容は消去されてしまいますので、誤って重要なディスクをフォーマットしないように気をつけて下さい。
また、あらかじめ上記のようにフォーマットされたディスクも市販されており、同様にご利用できます。

機能編

第二章

「将棋聖天II」を起動する

●フロッピーディスクから起動する場合

① 本体およびディスプレイの電源を入れます。
② 「将棋聖天II」のシステムをフロッピーディスクドライブ1に挿入します。
③ しばらくすると「将棋聖天II」のタイトルが表示されます。
④ うまく起動しない場合は一度リセットボタンを押して下さい。

ハードディスクをお持ちの方でフロッピーディスクから起動せずハードディスクが起動してしまう場合はMS-DOSのSWITCHコマンドを使用して「BOOT装置」を「標準」に変更して下さい。

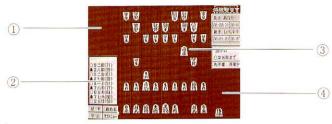
Noteシリーズをお持ちの方でフロッピーディスクから起動せずRAMドライブが起動してしまう場合はNoteメニューを使用して「立ち上げドライブ」をフロッピーディスクドライブに設定してください。

●ハードディスクから起動する場合

① ハードディスクよりMS-DOSを起動します。
② 「将棋聖天II」システムディスクをフロッピーディスクドライブ1に挿入します。
カレントディレクトリをインストールで作成した"SEITEN 2"に移動します。
③ A>CD ¥SEITEN 2 [リターン]
START.BATを実行してください。
④ A>START [リターン]

「コマンドまたはファイル名が違います」というメッセージが出て起動できない場合はディレクトリの移動に失敗しています。
上記のタイプ例はAドライブがハードディスクの場合を想定しています。従いましてハードディスクがAドライブでない場合や起動後カレントドライブを移動している場合はカレントディレクトリを移動するまえにカレントドライブをハードディスクに移動しなければなりません。
B>A: [リターン]

画面説明

「将棋聖天II」のゲーム中は次のような画面が表示されています。

①駒台（左）

後手（画面上側）の持ち駒を表示します。盤反転をすると先手の持駒になります。同じ種類の駒が２枚以上になると重なって表示します。また「歩」が１０枚以上になった場合、１０枚以上は表示されません。

②棋譜ウィンドゥ表示エリア

対局中などに棋譜を表示します。また、サブメニューの呼び出しなどのコマンドもここに表示します。

③盤面

将棋盤と盤上の駒を表示します。盤反転をしていない時は先手が下から上へ攻め、盤反転している時は後手が下から上へ攻めます。

④駒台（右）

先手（画面下側）の持ち駒を表示します。盤反転をすると後手の持駒になります。枚数表現は①駒台（左）と同じです。

メインメニューについて

起動直後、画面中央に現れるメニューをメインメニューといいます。

メインメニューは「将棋聖天Ⅱ」の各機能の入り口に相当します。
使用したい機能の項目にマウスカーソルを移動させ、クリックすればその機能に移ります。

●メインメニューは、ある機能から別の機能への橋渡しの役目も行います。ある機能から別の機能へ移動する場合（＜定跡編集＞をした後で＜詰将棋　問題集＞をしたくなった時など）、いったんメインメニューに戻ってから移動先の機能を選択して下さい。＜棋譜操作＞からの＜指し継ぎ＞など、戻らなくてもよい場合もあります。

●メインメニューが表示され各機能の選択状態にある時は、駒をつかんだり移動させたりできません。
将棋盤・駒台上の駒を移動できるのは＜対局＞＜棋譜操作＞＜定跡編集＞＜詰将棋＞のいずれかを実行中の間だけです。

◆対局

コンピュータと対局を行うとき選択して下さい。また人間同士で対局する場合や棋譜の入力を行うときも選択して下さい。
＜対局＞を選択すると対局メニューウィンドゥが表示されます。

◆棋譜操作

コンピュータ内部に記憶されている棋譜を再現・鑑賞するとき選択して下さい。
コンピュータ内部の棋譜は、対局を選択して対局を行うか、ファイルを選択して棋譜をロードするか、詰将棋を選択して解答機能を使用するか、のいずれかを行うことで記憶されます。
＜棋譜操作＞を選択すると棋譜操作メニューウィンドゥが表示されます。

◆定跡編集
コンピュータの使う定跡を追加・変更する場合に選択して下さい。
＜定跡編集＞を選択すると編集編集メニューウィンドゥが表示されます。

◆詰将棋　問題集
新作詰将棋問題３６５問に挑戦したいときに選択して下さい。
問題選択ウィンドゥが表示されます。

◆詰将棋　自動解答
コンピュータに詰将棋の問題を解かせたいときに選択して下さい。
解答準備ウィンドゥが表示されます。

◆対局結果記録表
コンピュータの各レベルとの対局結果を一覧したいときに選択して下さい。
対局記録画面が表示されます。

◆環境設定
音楽・効果音の有無や、画面色の反転、駒・盤のグラフィックの変更などを設定したいときに選択して下さい。
環境設定ウィンドゥが表示されます。

◆終了
「将棋聖天Ⅱ」を終了したいときに選択して下さい。
特にハードディスクをご使用の方は、必ずこの項目を選択してから終了して下さい。
いきなり電源を切るなどされますとディスクが破損する恐れがあります。

対局準備

コンピュータとの対局、人間同士の対局を行います。
メインメニューで<対局>を選択すると、対局メニューウィンドゥが表示されます。

◆対局メニュー

ただ今から指す対局の条件を表示しているウィンドゥです。

対局開始：表示されている条件で対局を開始します。

中　　止：メインメニューに戻ります。

変　　更：思考レベルや手合いなど、表示されている条件を変更したいときに選択して下さい。対局設定ウィンドゥが表示されます。

棋譜再現：現在コンピュータ内部に記憶されている棋譜を再現・鑑賞できます。クリックすれば<棋譜再現>に進みます。

棋譜セーブ：現在コンピュータ内部に記憶されている棋譜をディスクへ保存する機能です。クリックすれば棋譜保存ウィンドゥが表示されます。

棋譜ロード：ディスクから棋譜をコンピュータ内部に読み込む機能です。クリックすれば棋譜読込ウィンドゥが表示されます。

印　　刷：現在の棋譜や盤面を印刷する機能です。クリックすれば印刷メニューウィンドゥが表示されます。

平　　手：平手に戻します。
二枚落：先手の飛・角を落とします。
盤面設定：自由に駒を並べられます。

◆対局設定

対局名や手合いを変更できます。

対　局　名：「○○戦第○局」など、対局の見出しを付けることができます。変更したい時は欄内をクリックして下さい。キーボードからの入力待ちになります。英数字または半角カナで入力し、リターンキーを押して下さい。
日本語ＦＥＰを組み込まれている方はその操作方法に従って下さい。

先　　　手：好きな対局者名を付けることができます。変更方法は＜対局名＞と同じです。

後　　　手：＜先手＞と同じです。

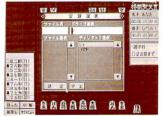
手　　　番：先手・後手を人間・コンピュータのどちらにするかを設定できます。変更するときは四角いボタンをクリックして下さい。
先手・後手を決定する際、先手が必ず上手になり画面上から下へ攻める形になります。従ってあなたが上手で指される場合は、対局サブメニューで＜盤面回転＞を行うと画面下から上へ攻める形になり、見やすくプレイできます。

将棋聖天レベル：コンピュータの思考の強さを8段階で設定します。▶をクリックすればレベルが高く強く、◀をクリックすれば低く弱くなります。＜手番＞を人間対人間にしている時は関係ありません。

変　　　更：コンピュータの使う定跡を変更するときにクリックして下さい。定跡選択ウィンドゥが表示されます。

◆定跡選択

対局設定時にコンピュータの使う定跡（序盤の指し方）を指定できます。<定跡編集>で作成・編集した定跡ファイルを選択すれば、コンピュータはその定跡で指します。

付属の定跡ディスクから定跡を読み取らせて、その定跡を指定することもできます。

ドライブ選択：現在使えるドライブがＡＢＣ……順に表示されます。定跡ファイルの入っているディスクのドライブをクリックして下さい。

ディレクトリ選択：上記で選択したドライブのディレクトリが表示されます。定跡ファイルを何かのディレクトリ内に整理している時は、この欄のそのディレクトリ名をクリックして下さい。
ドライブ名とディレクトリ名はＭＳ－ＤＯＳと同じ表現を使用します。
目的のディレクトリ名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ディレクトリ名が上下にスクロールして次のディレクトリ名が表示されます。
<例>ＢドライブのSEITEN2ディレクトリを指定する場合
<ドライブ選択>のＢをクリックして下さい。
<パス名>のSEITEN2をクリックして下さい。

ファイル選択：<ドライブ選択><パス名>で指定されているドライブ·パス先にある定跡ファイルの一覧が表示されます。
コンピュータに使用させる定跡ファイルを選んでクリックして下さい。
目的のファイル名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。
ファイル名が上下にスクロールして次のファイル名が表示されます。またドライブ名やディレクトリ名の指定を間違えるとファイル名が表示されません。

ファイル名：選択している定跡ファイルです。
選択するファイル名を直接指定することもできます。この欄を直接クリックすれば、キーボードからの入力待ちになります。

読　　込：<ファイル名>に表示されている定跡ファイルを読み込みます。
中　　止：定跡を変更せずに対局設定ウィンドゥに戻ります。

●平手で最初から指したい場合

① メインメニューから対局メニューウィンドゥに入って下さい。
盤面が平手以外の状態になっている場合、<平手>をクリックして下さい。
盤面が初期化され、駒の並びが最初の状態に戻ります。
② 対局名・指し手などを変更したい場合、<変更>をクリックして下さい。
対局設定ウィンドゥが表示されますので、手番等を決めて下さい。
<決定>で対局設定ウィンドゥに戻ります。
③ <対局開始>をクリックして下さい。対局画面に入ります。

●二枚落ちで指したい場合

① メインメニューから対局メニューウィンドゥに入って下さい。
盤面が平手以外の状態になっている場合、<二枚落>をクリックして下さい。
盤面が初期化され、駒の並びが最初の状態に戻ります。
② 以降は「平手で指したい場合」と同じ操作です。

●途中から指したい場合

① メインメニューから対局メニューウィンドゥに入って下さい。
将棋盤が指したい局面になっていることを確かめて下さい。
もし手を戻すなど、局面を変更したければ<棋譜操作>をクリックして下さい。(詳細は<棋譜操作>をお読み下さい)
② 局面を変更し終えたら棋譜操作の<サブメニュー>をクリックして下さい。

<指し継ぎ>をクリックすれば対局画面に入ります。

●二枚落ち以外の駒落ちなど、ある状態の盤面から指したい場合

① メインメニューから対局メニューウィンドゥに入って下さい。
<盤面設定>をクリックして下さい。(詳細は<盤面設定>をお読み下さい)
② 盤面を変更し終えたら<決定>をクリックして下さい。対局メニューウィンドゥに戻りますので、<対局開始>をクリックして下さい。

対局中の操作

ここでは対局を開始してからの操作について説明します。

●対局中の画面

◆棋譜ウィンドゥ表示エリア

対局中に棋譜を表示します。また、サブメニューの呼び出しなどのコマンドもここに表示します。

◆先手対局者名

対局開始時に入力した先手の対局者名を表示します。

◆先手使用時間

対局を始めてから先手が考えた時間を表示します。

◆後手対局者名

対局開始時に入力した後手の対局者名を表示します。

◆後手使用時間

対局を始めてから後手が考えた時間を表示します。

◆手数表示

対局を始めてから何手目であるかと、直前の手と手番を表示します。

●駒の移動

マウスカーソルを移動させたい駒の上に重ね、クリックすると駒をつかみます。(マウスカーソルが駒そのものになります) そのまま駒を移動させたい位置にマウスで移動させ、もう一度クリックすれば駒を置けます。
間違った駒をつかんでしまった時は、右クリックすると元の位置に駒を戻します。

●成り・不成りの選択

移動した駒が成れる場合、駒を置いたときに成った駒と成らない駒がウィンドゥに表示されます。どちらかの上にマウスカーソルを移動させ、クリックして下さい。

●対局中コマンドについて

駒をつかんでいない状態で、画面左下のコマンドをクリックすれば使えます。

待　っ　た：いわゆる「待った」をしたいときに選択してください。
　　　　　　2手戻します。2手以上指していないときは、<待った>は使えません。

中　　　断：対局を中断して、対局メニューウィンドゥに戻ります。

仮　指　し：先を読みたい場合など、仮に駒を置いて（一人で両方の手を進めて）考えることができます。
　　　　　　クリックすれば<仮打ち>に進みます。（詳細は<仮打ち>を参照して下さい）

サブメニュー：対局サブメニューウィンドゥが表示されます。

◆対局サブメニュー

盤面回転：将棋盤の上下の向きを変えます。上から下へ攻める形になったとき、選択すれば下から上へ攻める形になり、見やすくなります。

棋譜セーブ：対局途中で棋譜をセーブしておきたいときに選択してください。

棋譜ロード：現在指している対局をやめて、他の対局の棋譜を指したいときに選択して下さい。

環 境 設 定 ：ＢＧＭや駒盤のグラフィックを変更したいときに選択して下さい。

投　　　了 ：負けを認めて対局を終わるときに選択してください。
終了メッセージが表示された後、<確認>をクリックすれば対局メニューウィンドゥに戻ります。
なお詰まれた場合は自動的に対局が終りますので、投了する必要はありません。

対局へ戻る ：対局サブメニューウィンドゥを消し、対局を再開します。

仮指し

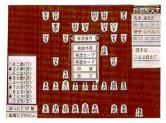
ある局面でこう指せばどうなるか、実際に駒を進めて検討できる機能です。対局や詰将棋で、指す手を迷ったときに使用して下さい。
<対局>または<詰将棋　問題集>のサブメニューで<仮打ち>を選択すれば、<仮指し>に入ります。

◆仮指し中のコマンド

一 手 戻 す ：クリックすれば、仮打ちで指した手を一手戻します。
仮指し中止 ：仮打ちで動かした駒を戻し、呼び出した元に戻ります。

棋譜操作

ここではコンピュータの内部に記憶している棋譜を再現、鑑賞する方法を説明します。
棋譜は対局を行なうか、棋譜をロードするか、詰め将棋の解答機能を使用したときにコンピュータの内部に記憶されます。従って、これらの操作をしない限り再現はできません。
メインメニューで<棋譜操作>を選択すると棋譜操作メニューウィンドゥが表示されます。

◆棋譜操作メニュー

棋 譜 再 現 ：クリックすれば、<棋譜再現>に入ります。

棋譜セーブ ：現在の棋譜をディスクへ保存しておきたいときに使います。クリックすれば棋譜保存ウィンドゥが表示されます。（詳細は<棋譜セーブ>を参照して下さい）

棋譜ロード ：現在の棋譜を捨て、ディスクから棋譜を読み込みたいときに使います。クリックすれば棋譜読込ウィンドゥが表示されます。（詳細は<棋譜ロード>を参照して下さい）

印　　刷 ：現在の棋譜や盤面を印刷します。クリックすれば印刷メニューウィンドゥが表示されます。（詳細は<印刷>を参照して下さい）

終　　了 ：メインメニューに戻ります。

◆棋譜再現

コンピュータ内部の棋譜を、実際に駒を進めたり戻したりしながら再現していきます。画面左下のコマンドを使用して下さい。

進　め　る：クリックすると１手進みます。またボタンを押し続けると早送りで先に進みます。

戻　　　す：クリックすると一手戻ります。またボタンを押し続けると早送りで手を戻していきます。

中　　　止：<棋譜再現>を中止して呼び出し元へ戻ります。

サブメニュー：セーブ・ロード、指し継ぎなどが行えます。クリックすれば再現サブメニューウィンドゥが表示されます。

◆再現サブメニュー

盤 面 回 転：将棋盤の上下の向きを変えます。上から下へ攻める形になったとき、選択すれば下から上へ攻める形になり、見やすくなります。

棋譜セーブ：再現途中で棋譜をセーブしておきたいときに選択してください。

棋譜ロード：現在再現している対局を捨てて、他の対局の棋譜を再現したいときに選択して下さい。

環 境 設 定：ＢＧＭや駒盤のグラフィックを変更したいときに選択して下さい。

指し継ぎ　：再現している手から対局を始めます。クリックすれば<対局>に移ります。

初手へ戻す：第一手目へ戻します。

最終手へ進める：棋譜の最後まで進めます。

再現へ戻る：再現サブメニューウィンドゥを消し、再現を再開します。

盤面設定

ここでは将棋盤に自由に駒を配置する方法を説明します。
駒落ちの設定、指しかけから対局を始める、詰め将棋問題の入力などで使用します。

＜対局＞の対局メニューウィンドゥの＜盤面配置＞、＜詰将棋自動解答＞の問題選択ウィンドゥの＜盤面設定＞を選択して下さい。
画面右側中央に「盤面設定中」の表示がされ、盤面設定に入ります。

●駒の置き方

盤設定画面では駒を自由につかみ、好きな場所に置くことができます。
駒のつかみ方、置き方は対局中の操作とほぼ同じですが、駒の向きや裏表を変更するために多少の違いがあります。
マウスカーソルを移動させたい駒の上に重ね、クリックすると駒をつかみます。(マウスカーソルが駒そのものになります) そのまま駒を移動させたい位置にマウスで移動させ、もう一度クリックすれば駒を置けます。
駒をつかんだ状態で右クリックすると駒の状態が　歩　→　と　→　歩（相手側）→　と（相手側）　と変化し、これを繰り返します。

駒を落としたい（その駒を使わない）ときは、画面の左側下にあるウインドゥに置きます。

◆盤面設定中コマンド

駒の配置を初期化したい場合は、下記のコマンドを使って下さい。

平　　手：クリックすると平手の初期盤面になります。
二 枚 落：クリックすると画面上側の飛車・角行二枚落ちの初期盤面になります。
詰　　：詰将棋用に初期化します。盤面には５一の位置に王将が表示され、そのほかの駒は全て画面上側の持ち駒となります。
決　　定：設定が完了すればクリックして下さい。盤面を設定して呼び出した元に戻ります。
ただし二歩など将棋のルールに反した状態や、王手がかかっている状態では完了できません。
中　　止：盤面を設定前の状態に戻して、呼び出した元に戻ります。

棋譜セーブ

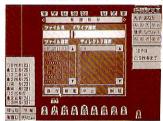
ここではコンピュータの内部に記憶されている棋譜をフロッピーディスクやハードディスクにセーブ（保存）する手順を説明します。
棋譜は対局を行うか、棋譜をロードするか、詰将棋の解答機能を使用したときにコンピュータの内部に記憶されます。また盤設定を行っても盤上の配置が記憶されます。従ってこれらの操作をしていない場合は、セーブを行う意味がありません。

●ディスクの用意

ユーザーディスクを空いているフロッピーディスクドライブに挿入して下さい。
Ｎｏｔｅシリーズをお使いの方は、ＲＡＭドライブをユーザーディスクとして下さい。なおハードディスク上で「将棋聖天Ⅱ」を起動されている方は、ハードディスクにセーブできます。

各メニュー・コマンドの<棋譜セーブ>を選択すると、棋譜保存ウィンドゥが表示されます。

◆棋譜保存

まず棋譜をセーブするファイルの名前を指定するか、<新規>で入力して下さい。

ドライブ選択：現在使えるドライブがＡＢＣ……順に表示されます。
棋譜ファイルを保存するディスクのドライブをクリックして下さい。

ディレクトリ選択：上記で選択したドライブのディレクトリが表示されます。棋譜ファイルを何かのディレクトリ内に整理している時は、この欄のそのディレクトリ名をクリックして下さい。
ドライブ名とディレクトリ名はＭＳ－ＤＯＳと同じ表現を使用します。
目的のディレクトリ名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ディレクトリ名が上下にスクロールして次のディレクトリ名が表示されます。

<例> ＢドライブのSEITEN2ディレクトリを指定する場合
<ドライブ選択>のＢをクリックして下さい。
<パス名>のSEITEN2をクリックして下さい。

ファイル選択：<ドライブ選択><パス名>で指定されているドライブ・パス先にある棋譜ファイルの一覧が表示されます。
既存の棋譜ファイルを消して、同じ名前のファイルにセーブしたい場合（指し継ぎした後など）は、そのファイル名を選んでクリックして下さい。
目的のファイル名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。
ファイル名が上下にスクロールして次のファイル名が表示されます。
またドライブ名やディレクトリ名の指定を間違えるとファイル名が表示されません。

ファイル名：セーブするファイルの名前です。
この欄を直接クリックすれば、キーボードからの入力待ちになります。セーブする棋譜ファイルの名前を入力し、リターンキーを押して下さい。

保　　存：<ファイル名>に表示されているファイル名で棋譜をセーブします。
確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

新　　規：新たにファイルを作成して棋譜をセーブします。ファイル名の入力ウィンドゥが表示されますので、セーブする棋譜ファイルの名前を入力し、リターンキーを押して下さい。入力後、<実行>をクリックすればセーブを行います。確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

中　　止：セーブを行わずに呼び出し元に戻ります。

削　　除：<ファイル名>に表示されているファイルを消します。確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

すでに存在するファイル名にセーブすると、古い棋譜データの上に新しいデータを保存するので古い棋譜が消えてしまいます。<新規>以外でセーブを行うときは注意して下さい。

棋譜ロード

ここではフロッピーディスクやハードディスクに保存されている棋譜をコンピュータ内部にロード（読込み）する手順を説明します。
ロードを行うと現在コンピュータ内部に記憶されている棋譜が消えてしまいます。よく確認をしてからロードを行って下さい。

●ディスクの用意

ユーザーディスクを空いているフロッピーディスクドライブに挿入して下さい。Ｎｏｔｅシリーズをお使いの方は、ＲＡＭドライブをユーザーディスクとして下さい。なおハードディスク上で「将棋聖天Ⅱ」を起動されている方は、ハードディスクからロードできます。

各メニュー・コマンドの＜棋譜ロード＞を選択すると、棋譜読込ウィンドゥが表示されます。

◆棋譜読込

ロードする棋譜ファイルを指定して下さい。

ドライブ選択：現在使えるドライブがＡＢＣ……順に表示されます。
棋譜ファイルの入っているディスクのドライブをクリックして下さい。

ディレクトリ選択：上記で選択したドライブのディレクトリが表示されます。棋譜ファイルを何かのディレクトリ内に整理している時は、この欄のそのディレクトリ名をクリックして下さい。
ドライブ名とディレクトリ名はＭＳ－ＤＯＳと同じ表現を使用します。目的のディレクトリ名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ディレクトリ名が上下にスクロールして次のディレクトリ名が表示されます。
＜例＞ＢドライブのSEITEN2ディレクトリを指定する場合
＜ドライブ選択＞のＢをクリックして下さい。
＜パス名＞のSEITEN2をクリックして下さい。

ファイル選択：<ドライブ選択><パス名>で指定されているドライブ・パス先にある棋譜ファイルの一覧が表示されます。
ロードする棋譜ファイルを選んでクリックして下さい。
目的のファイル名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ファイル名が上下にスクロールして次のファイル名が表示されます。またドライブ名やディレクトリ名の指定を間違えるとファイル名が表示されません。

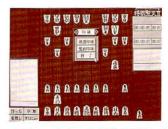
ファイル名：選択している棋譜ファイルです。
選択するファイル名を直接指定することもできます。この欄を直接クリックすれば、キーボードからの入力待ちになります。

読　　込：<ファイル名>に表示されている棋譜ファイルをロードします。

中　　止：ロードせずに呼び出し元に戻ります。

印　刷

「将棋聖天II」では、棋譜や盤面を鮮明に印刷することができます。
●お持ちのパソコン本体にプリンターが印刷可能状態で接続されていることを確認して下さい。
<対局><棋譜操作>のメニューウィンドゥで<印刷>をクリックすれば、印刷メニューウィンドゥが表示されます。

◆印刷

棋譜印刷：「▲六歩　▽3四歩……」という棋譜を印刷します。クリックすれば確認ウィンドゥが表示されますので、<印刷>をクリックして下さい。

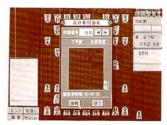
盤面印刷：盤上の駒の配置を印刷します。クリックすれば確認ウィンドゥが表示されますので、<印刷>をクリックして下さい。

終　　了：呼び出した元に戻ります。

詰将棋•出題

ここでは詰将棋３６５問を解く手順を説明します。

メインメニューから＜詰将棋問題集＞を選択して下さい。問題選択ウィンドゥが表示されます。

◆問題選択

問題番号の横にある三角形をクリックして解く問題を選んで下さい。
左向き三角 ◀ で問題番号が小さくなり、右向き三角 ▶ で問題番号が大きくなります。

挑　戦：クリックすれば、その問題が出題されます。

終　了：メインメニューに戻ります。

◆出題

あなたは攻め方になって指して下さい。コンピュータが玉方の手を指します。

駒の動かし方は対局とほぼ同じです。
マウスカーソルを移動させたい駒の上に重ね、クリックすると駒をつかみます。（マウスカーソルが駒そのものになります）そのまま駒を移動させたい位置にマウスで移動させ、もう一度クリックすれば駒を置きます。
間違って駒を持ってしまった時は右クリックすると元の位置に戻します。

間違った手をさせば、不正解が表示されます。＜確認＞をクリックすれば、間違った手を指す直前の状態から指し直すことができます。なお複数の詰め手順がある場合、その一つのみを正解としております。

正しく詰めると正解と表示され、次の問題に進みます。

●出題中のコマンド

ヒ　ン　ト：解き方のヒントを表示します。<確認>をクリックすれば、出題を再開します。

仮　指　し：駒を仮に進めて考えることができます。<仮打ち>に入ります。

降　　　参：その問題をあきらめるときに選択して下さい。問題選択ウィンドゥに戻ります。

サブメニュー：画面中央にサブメニューが表示されます。

◆詰将棋サブメニュー

盤面回転：将棋盤の上下を反転します。

環境設定：音楽・効果音の有無、画面色の設定、駒グラフィックの変更などができます。

詰将棋へ戻る：サブメニューを終了します。

詰将棋自動解答

ここではコンピュータに詰将棋の問題を解かせる手順について説明します。
詰将棋解答機能を使用すると、現在コンピュータ内部に記憶されている棋譜が消えてしまいます。指し継ぎする前など、大切な棋譜が記憶されている場合は、必ず棋譜のセーブを行っておいて下さい。

メインメニューから＜詰将棋自動解答＞を選択して下さい。解答準備ウィンドゥが表示されます。

◆解答準備

盤面設定：盤面が解かせる問題の駒の配置になっていなければ、まずここを選択して駒を配置して下さい。（＜盤面設定＞を参照して下さい。）

解答開始：クリックすれば、現在の盤の配置を解き始めます。画面中央に「詰将棋自動解答中」と表示され、しばらく考えた後、解けたか解けなかったかが表示されます。

中　　止：メインメニューに戻ります。

◆解答について

解けなかった場合、問題の入力を間違っていないか確認して下さい。
なお「将棋聖天Ⅱ」の解答機能は改良を重ねておりますが、詰み手数が増えると考える時間が長くなります。あらかじめご了承下さい。また複数の詰み方がある場合、いずれか一つのみを表示します。

解けた場合は画面中央に「解けました」と表示されます。<確認>をクリックして下さい。<棋譜再現>に入ります。
詰みまでの棋譜が画面左中央に表示され、将棋盤は詰んだ最終手の状態になります。
画面左下に表示されているコマンドの<進める>を左クリックすると一手進み、<戻す>を左クリックすると一手戻ります。
詳細は<棋譜操作>を参照ください。

●詰め将棋自動解答機能には以下のような問題を起こす場合があります。あらかじめご了承下さい。

◆詰み手数が多くなると考える時間が非常に長くなります。
◆出題機能で出題される問題を解かせた場合、出題機能で要求している解答と異なった解答を出す場合があります。

定跡編集

ここでは定跡データを編集する方法を説明します。

定跡データとは、序盤戦での駒組みや急戦に対する受けなどを駒の動かし方で記録しているデータで、一度に約二万手を記憶させられます。
編集した定跡データを<対局>の<定跡選択>で使用すれば、コンピュータはあなたの教えた定跡で指します。

メインメニューから<定跡編集>を選択して下さい。定跡編集メニューウィンドゥが表示されます。

◆定跡編集メニュー

ファイル読込：編集する定跡データファイルをディスクから読み込みます。クリックすれば定跡ファイル読込ウィンドゥが表示されます。

新 規 作 成：既存の定跡データを使わず、最初から（「将棋聖天II」既存の定跡データが一手も入ってない状態から）作成します。
クリックすれば定跡ファイル新規作成ウィンドゥが表示されます。

中　　止：メインメニューに戻ります。

◆定跡ファイル読込

読み込み、編集する定跡ファイルの種類を選択して下さい。
例えば先手人間・後手コンピュータの対局では、コンピュータが使う定跡は<平手後手定跡>になります。

なお読込（ロード）を行うと現在コンピュータ内部に記憶している定跡が消えてしまいます。

平手先手定跡：平手の対局で、先手側の使う定跡です。
平手後手定跡：平手の対局で、後手側の使う定跡です。
二枚落先手定跡：二枚落の対局で、先手側の使う定跡です。
二枚落後手定跡：二枚落の対局で、後手側の使う定跡です。
クリックすれば定跡読込ウィンドゥが表示されます。

中　止：定跡編集メニューウィンドゥに戻ります。

ドライブ選択：現在使えるドライブがＡＢＣ……順に表示されます。
定跡ファイルの入っているディスクのドライブをクリックして下さい。

ディレクトリ選択：上記で選択したドライブのディレクトリが表示されます。定跡ファイルを何かのディレクトリ内に整理している時は、この欄のそのディレクトリ名をクリックして下さい。
ドライブ名とディレクトリ名はＭＳ－ＤＯＳと同じ表現を使用します。
目的のディレクトリ名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ディレクトリ名が上下にスクロールして次のディレクトリ名が表示されます。

<例>ＢドライブのSEITEN2ディレクトリを指定する場合
<ドライブ選択>のＢをクリックして下さい。
<パス名>のSEITEN2をクリックして下さい。

ファイル選択：<ドライブ選択><パス名>で指定されているドライブ・パス先にある定跡ファイルの一覧が表示されます。
コンピュータに使用させる定跡ファイルを選んでクリックして下さい。
目的のファイル名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。
ファイル名が上下にスクロールして次のファイル名が表示されます。またドライブ名やディレクトリ名の指定を間違えるとファイル名が表示されません。

ファイル名：選択している定跡ファイルです。
選択するファイル名を直接指定することもできます。この欄を直接クリックすれば、キーボードからの入力待ちになります。

読込：<ファイル名>に表示されている定跡ファイルを読み込みます。
確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。ロード後、<定跡編集>に入ります。

中止：定跡をロードせずに定跡ファイル読込ウィンドゥに戻ります。

◆定跡ファイル新規作成

編集する定跡ファイルの種類を選択して下さい。例えば先手人間・後手コンピュータの対局では、コンピュータが使う定跡は<平手後手定跡>になります。

平手先手定跡：平手の対局で、先手側の使う定跡です。
平手後手定跡：平手の対局で、後手側の使う定跡です。
二枚落先手定跡：二枚落の対局で、先手側の使う定跡です。
二枚落後手定跡：二枚落の対局で、後手側の使う定跡です。
クリックすれば<定跡編集>に入ります。

中　止：定跡編集メニューウィンドゥに戻ります。

◆定跡編集

●入力方法

定跡編集画面での操作は対局とほぼ同じですが、ある局面で指す手（選択肢といいます）が複数あるときは多少複雑になります。例えば第1手で角道を空けるのと、飛車先を突くのと複数考えられるようなときです。

◎対応する手が1手のみの場合
まず先手側の手を入力します。マウスカーソルを移動させたい駒の上に重ね、クリックすると駒をつかみます。（マウスカーソルが駒そのものになります）そのまま駒を移動させたい位置にマウスで移動させ、もう一度クリックすれば

駒を置いたことになります。間違った駒を持ってしまったときは、右クリックすれば元の位置に駒を戻せます。

次にその手に対する後手側の手を入力します。同様に一手指して下さい。

下から上へ攻める時はマウスカーソルの形が↑、上から下の時は↓となります。

◎対応する手が複数ある場合

まず一手指した後で<戻す>をクリックしてその手を指す前の状態に戻し、別の手を指して下さい。

ある局面で複数の手が入力されている場合、選択肢の欄にそれらが全て表示されます。その中でも現在将棋盤上で指されている手は反転して表示されています。別の手を左クリックすれば、その手を指した状態になります。

選択肢が多くてウィンドゥに入りきらない場合、▲または▼をクリックすると上下にスクロールします。

定跡データを入力する場合、この選択肢を多くすればするほど、対応できる局面が多くなり、強い定跡になります。

<後手定跡>つまりコンピュータが後手の場合に使われる定跡では、後手が有利になるように指して下さい。先手が有利になるように指すと、当然コンピュータは対局で自ら不利な手を指してしまいます。逆に<先手定跡>なら先手が有利になるように指して下さい。

●編集中のコマンド

戻　　す：一手前の手に戻ります。

進 め る：一手先の手に進みます。

削　　除：選択肢で反転している指し手を消します。その手に続いて指している手も消えてしまいます。
確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

保　　存：編集した定跡データをディスクに保存します。クリックすると定跡保存ウィンドゥが表示されます。

終　　了：編集を終了します。「編集した定跡データを保存しますか」と表示されます。

す　　る：定跡保存ウィンドゥに進みます。

し な い：メインメニューへ戻ります。編集した定跡データはもうディスクに保存できませんので気をつけて下さい。

中　　止：編集を再開します。

◆定跡保存

編集した定跡データをフロッピーディスクやハードディスクにセーブ（保存）します。定跡データは定跡編集を行わない限り変化しないので、編集せずにセーブしても意味がありません。

●ディスクの用意

ユーザーディスクを空いているフロッピーディスクドライブに挿入して下さい。
Ｎｏｔｅシリーズをお使いの方は、ＲＡＭドライブをユーザーディスクとして下さい。
なおハードディスク上で「将棋聖天Ⅱ」を起動されている方は、ハードディスクにセーブできます。

まず編集した定跡データをセーブする定跡ファイルの名前を指定するか、<新規>で入力して下さい。

ドライブ選択：現在使えるドライブがＡＢＣ……順に表示されます。
定跡ファイルを保存するディスクのドライブをクリックして下さい。

ディレクトリ選択：上記で選択したドライブのディレクトリが表示されます。定跡ファイルを何かのディレクトリ内に整理している時は、この欄のそのディレクトリ名をクリックして下さい。
ドライブ名とディレクトリ名はＭＳ－ＤＯＳと同じ表現を使用します。目的のディレクトリ名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ディレクトリ名が上下にスクロールして次のディレクトリ名が表示されます。

<例>BドライブのSEITEN2ディレクトリを指定する場合
<ドライブ選択>のBをクリックして下さい。
<パス名>のSEITEN2をクリックして下さい。

ファイル選択：<ドライブ選択><パス名>で指定されているドライブ・パス先にある定跡ファイルの一覧が表示されます。
既存の定跡ファイルを消して、同じ名前のファイルにセーブしたい場合（読込・編集した後など）は、そのファイル名を選んでクリックして下さい。
目的のファイル名がない場合、▲や▼をクリックして下さい。ファイル名が上下にスクロールして次のファイル名が表示されます。またドライブ名やディレクトリ名の指定を間違えるとファイル名が表示されません。

ファイル名：セーブするファイルの名前です。
この欄を直接クリックすれば、キーボードからの入力待ちになります。セーブする定跡ファイルの名前を入力し、リターンキーを押して下さい。

保　　存：<ファイル名>に表示されているファイル名で定跡をセーブします。
確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

新　　規：新たにファイルを作成して定跡をセーブします。ファイル名入力ウィンドゥが表示されますので、セーブする定跡ファイルの名前を入力し、リターンキーを押して下さい。入力後、<実行>をクリックすればセーブを行います。確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

中　　止：セーブを行わずに<定跡編集>に戻ります。

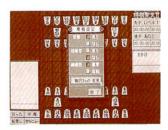
削　　除：<ファイル名>に表示されているファイルを消します。確認ウィンドゥが表示されますので<実行>をクリックして下さい。

すでに存在するファイル名にセーブすると、古い定跡データの上に新しいデータを保存するので古い定跡が消えてしまいます。<新規>以外でセーブを行うときは注意して下さい。

環境設定

ここでは音楽やグラフィックなどの、各種の環境を設定する方法について説明します。

＜対局＞＜詰将棋＞サブメニューなどから＜環境設定＞を選択して下さい。環境設定ウィンドゥが表示されます。

◆環境設定

音　　楽：本体にＦＭ音源が内臓された機種もしくはＦＭ音源ボードが接続してあれば、対局中にＢＧＭをお楽しみ頂けます。
＜音楽あり＞か＜音楽なし＞かを選択できます。

効 果 音：本体にＦＭ音源が内臓された機種もしくはＦＭ音源ボードが接続しておあれば、駒を打ち下ろした音などを鳴らします。
＜効果音あり＞か＜効果音なし＞かを選択できます。

画 面 色：Ｎｏｔｅ型パソコンの液晶白黒ディスプレイで表示するときの設定です。＜通常表示＞か＜反転表示＞かを選択できます。

設定を変更したい部分のボタンをクリックしてください。ボタンの色が変わり、設定が変更されます。

駒グラフィック変更：将棋の駒盤のグラフィックを選択できます。
クリックすると駒盤グラフィックウィンドゥが表示されます。

終　　了：クリックすれば、呼び出した元のメニューに戻ります。

◆駒盤のグラフィック変更

環境設定ウィンドゥから<駒グラフィック変更>を選択して下さい。駒盤グラフィック変更ウィンドゥが表示されます。現在選択中の駒のグラフィックの見本が表示されます。

一　文　字：金将なら「金」の一字のみを使った見やすい駒です。
水　無　瀬：代表的な美しい書体です。
草　　　流：渋みのある駒です。
ＮＯＴＥ：ノートタイプパソコンの液晶白黒ディスプレイ専用の駒です。

気に入った駒があれば<決定>を、変更したくなければ<中止>をクリックして下さい。環境設定ウィンドゥに戻ります。

●設定を変更した場合、システムディスクまたはハードディスクに選んだ設定が自動的に記録されます。次回からはその設定で起動します。ディスクは書き込み可能な状態にしてお使い下さい。

対局結果記録表

「将棋聖天Ⅱ」では、＜対局＞で行ったコンピュータとの対戦の成績を自動的に集計・記録します。

メインメニューから＜対局結果記録表＞をクリックすれば、記録表を表示します。それまでのコンピュータの各レベルとの対局の結果が表示されます。

終　　了：クリックするとメインメニューに戻ります。

消　　去：それまでの対戦記録を消すことができます。
クリックすると確認ウィンドゥが表示されますので、＜実行＞をクリックして下さい。

●対局結果はコンピュータとの対局が終了すると、システムディスクまたはハードディスクに自動的に記録されます。ディスクは書き込み可能な状態にしてお使い下さい。

トラブル編
第三章

うまく動かないときは

ここでは機械の操作がわからず、起動できない方のためにその対策を説明します。起動はできたが途中でエラー表示が出る方は、次章の「エラー表示が出るとき」をご覧下さい。

現象	対策
画面が真っ黒でディスクドライブのアクセスランプも点灯していない。	コンピュータ本体の電源はONになっていますか？ コンピュータ本体の電源プラグは正しく接続されていますか？
画面は真っ黒だがディスクアクセスランプは点灯している。	モニターの電源はONになっていますか？ モニターの電源プラグは正しく接続されていますか？ モニターとコンピュータ本体とのケーブルは正しく接続されていますか？ モニターの明るさつまみは適正な位置になっていますか？
「No System Files」と表示されて止る。	ディスクドライブにディスクが入っていますか？ ハードディスクの電源はONになっていますか？
起動の途中で止る。	「将棋聖天II」のシステムディスクで起動していますか？
ハードディスクから起動しようとすると「コマンドまたはファイル名が違います」と表示する。	カレントディレクトリが「将棋聖天II」のディレクトリになっていますか？ インストールは正しく行ないましたか？ 付属のインストーラを使用しましたか？

現　象	対　策
NOTEシリーズで起動できない。	起動ドライブがRAMドライブになっていると起動できません。起動ドライブをフロッピーディスクドライブにして下さい。
増設ドライブから起動できない。	増設ドライブの電源はONになっていますか？ディップスイッチの設定によっては起動ドライブを固定してしまうことがあります。ディップスイッチを確認してください。
ハードディスクから起動すると途中で止ってしまう。	インストールは正しく行ないましたか？ 付属のインストーラを使用しましたか？ ハードディスクの容量は残っていますか？ メモリは足りていますか？後述のハードディスクにインストールしても起動できない場合の対策を参考にメモリを確保して下さい。
色がおかしい。	8色のデジタルRGBモニターを使用すると色は正しく表示されません。アナログRGBモニターをお使い下さい。アナログRGBモニターをお使いの方は環境設定で画面色が「反転」になっていないか？また、駒グラフィックが「NOTE」になっていないか確認してください。
マウスカーソルが動かない。	マウスは正しく接続されていますか？ シリアルマウスは使用できません。パスマウスをお使い下さい。 パスマウスをお持ちでない方はキーボードをお使い下さい。

エラー表示がでるときは

ここでは「将棋聖天II」を使用中に表示されるエラー表示についてメッセージ別にその現象と対策を説明します。

メッセージ	現象と対策
ライトプロテクトエラー	書き込み禁止状態のフロッピーディスクに書き込みしようとするとこのエラーが出ます。書き込み可能状態にしてお使い下さい。
ドライブの準備ができていません	ロードやセーブしようとしたディスクドライブが使用できる状態にありません。 ディスクが入っていない、ふたが開いている、ドライブ名が間違っている、などが考えられます。
データエラー	ロードやセーブしようとしたディスクが異常です。 フォーマットしていない、ディスクが壊れている、などが考えられます。
メモリエラー	メモリが足りません。 後述の「ハードディスクにインストールしても起動できない場合の対策」を参考にメモリを確保して下さい。

メッセージ	現象と対策
ファイルがオープンできません	必要なファイルがそろっていません。 ハードディスクのインストールに失敗しています。 ハードディスクの容量を確認してもう一度付属のインストーラを使ってインストールしてください。 フロッピーディスクで起動してエラーがでた場合、誤って必要なファイルを消してしまっています。
ファイルが見つかりません	ロードを行なうとき、指定したファイルが見つからないとこのエラーがでます。 ファイルウインドウがでた後、ディスクの交換をしています。一度ファイルウインドウから戻り、再度ファイルウインドウを表示させてください。
システムエラー	コンピュータ内部で異常事態が起こっています。 他のソフトをお確かめの上、「将棋聖天II」だけこのエラーがでるようでしたらすぐに当社までご連絡下さい。

◎ここに表示されていないメッセージが表示されて「将棋聖天II」が停止してしまった場合、当社までご連絡下さい。

ハードディスクにインストールしても起動できない場合の対策

ハードディスクにインストールした「将棋聖天II」を起動する場合、使用可能メモリが約530キロバイト必要です。このため、日本語FEPなどを組み込んだシステムだとメモリ不足が生じます。

1. MS-DOS 3.xx をご使用の方

残念ながら MS-DOS 3.xx では、日本語FEPを組み込んだシステムで「将棋聖天II」を起動することはできません。
下記の起動方法における CONFIG.xxx をCONFIG.MS3 としてお読みください。

2. MS-DOS 5.xxをご利用の方

下記の起動方法をお読みの際に、
日本語FEPを使用しない方はCONFIG.xxx を CONFIG. MS5、
ATOK を使用する方は CONFIG. ATK、
WX IIを使用する方はCONFIG. WX2、
としてお読みください。
また、CONFIG. ATKとCONFIG. WX2 はAドライブのルートディレクトリーにFEPドライバと辞書があることが前提となっています。
環境の異なる方は、これらのファイルをお手持ちのエディタでA:¥とある部分を修正してください。

■ハードディスクから立ち上げて「将棋聖天II」を起動する方法

「将棋聖天II」　システムディスク」に入っているCONFIG.xxxと言うファイルを立ち上げドライブのルートディレクトリにCONFIG.SYSというファイル名でコピーして立ち上げるとメモリを確保できます。ただし、そのままコピーすると元のCONFIG.SYSが消えてしまい通常の環境に戻らなくなってしまいますので、CONFG.BAKという名前にして保存しておきます。

```
A > REN  A :¥CONFIG. SYS  CONFIG. BAK  [ret]
A > COPY  B: ¥CONFIG . xxx  A : ¥CONFIG. SYS [ret]
```

この後、リセットボタンを押して再起動して「将棋聖天II」を起動してください。
「将棋聖天II」を終了したら、以下の手順でCONFIG. SYSを元の状態に戻してください。

```
A > COPY  A: ¥CONFIG .BAK  A : ¥CONFIG. SYS [ret]
```

この後、リセットボタンを押して再起動すれば元の環境に戻ります。

この方法は少し手間がかかりますが、上記の操作をバッチファイル化すれば簡単に起動できます。(2回リセットすることは免れませんが)
また、ハードディスクのパーテーションに余裕があれば「将棋聖天II」起動専用のパーテーションのドライブにCONFIG. xxxをCONFIG. SYSのファイル名でコピーしておけば起動パーテーションの選択だけで「将棋聖天II」を起動します。

こういった操作が苦手な方は、以下の起動ディスクを作成して利用してください。

■「将棋聖天II」専用起動フロッピーを作成し、起動のみフロッピーディスクから行なう方法

起動用ディスクを作成してシステムを起動すると上記のようなめんどうなCONFIG. SYSの変更は必要なくなります。そのかわり、MS-DOSの起動がフロッピーになるので、起動に若干時間がかかります。しかし、「将棋聖天II」の起動はハードディスクから行ないますので「将棋聖天II」の操作はすべてハードディスク上になります。

①新しいフロッピーディスクをシステム入でフォーマットします。
A>FORMAT B: /S [ret]　(Bドライブに新しいフロッピーを入れた場合)
②「将棋聖天IIシステムディスク」の中のCONFIG. xxxをフォーマットしたディスクにCONFIG.SYSというファイル名でコピーしてください。
A >COPY C:¥CONFIG.xxx B:¥CONFIG.SYS [ret]（Cドライブにシステムディスクをいれた場合)
③ MS-DOS 5. xxの場合はHIMEM.SYSとEMM386.EXEを¥DOSというディレクトリを作成してそこにコピーしてください。(MS-DOS 3.xxのかたは不要です)
A>MD B:¥DOS [ret]　(Bドライブに新しいフロッピーをいれた場合)
A>COPY A:¥DOS¥HIMEM.SYS B:¥DOS [ret]A>COPY A:¥DOS¥EMM386.EXE. B:¥DOS [ret](DOSのコマンド群がAドライブの¥DOSにある場合)
④起動用ディスクは完成しました。ディスクをドライブに挿入して、リセットして下さい。日付や時間を尋ねてきたらそのまま[ret]キーを押して下さい。
その後はハードディスクからの起動方法の通り、「将棋聖天II」のディレクトリに移動してSTART.BATを実行してください。
このとき、フロッピーから立ち上がっている関係上、ドライブ名が変わっている場合がありますので注意してください。

注意事項

●コンピュータは精密機械ですから絶対に分解しないでください。

●ディスクの取り扱いには十分注意し、以下のことを守るようお願いします。

- •ディスクを差し込んだまま電源を切らないようにしてください。
- •ディスクのアクセス中（ランプ点灯中）は絶対にディスクを取り出したり電源を切ったりしないで下さい。
- •ディスクをほこりや湿気の多い所、磁気のある所に置かないで下さい。

●長時間にわたりゲームをする時は1時間に10分程度の休憩をしてください。

●本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

●本商品は魔法株式会社が開発したオリジナル作品です。
従って当社の許可なく、映像、音響、プログラム、データ、印刷物などの一部又は全部を複製することを禁じます。

●落丁・乱丁を除き本書の再発行はいたしません。

●万一、本ソフト使用により生じた損害、逸失利益または第三者のいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

●商品は慎重に検査し、万全を期して出荷しておりますが、万一お気付きの点がございましたら当社までご連絡下さい。

ユーザーサポートお問い合わせ先

受付時間　14：00～18：00
（土、日、祝日は休業とさせていただきます）
〒651　神戸市中央区葺合町馬止1-10　マジカルビル
PHONE 078-261-2790　FAX 078-261-2792
魔法 株式会社「将棋聖天II」
ユーザーサポート係

魔法株式会社
MAGICAL COMPANY LTD.
〒651 神戸市中央区葺合町馬止1-10 マジカルビル
PHONE 078-261-2790 FAX 078-261-2792